

『人口学研究』原稿執筆要領

1. 原稿は、横書きとし、A4判を使用し、文書作成ソフトにより作成する。
2. 論文等の題名は、なるべく簡略にし、印刷した場合に2行にならないように配慮すること。副題も、なるべく1行に収まるようにすること。
3. 文章の構成項目の表示は、原則として次のとおりとする。
大項目：1. 2. 3.
中項目：1) 2) 3) … または 1.1 1.2 1.3 …
小項目：a b c … または 1.1.1 1.1.2 1.1.3
文章中の列挙は、(1), (2), (3)…、その下位の項目の場合は、(a), (b), (c)…とする。なお、「はじめに」、
「おわりに」の前には、1., 2., 3. …の番号は付けない。
4. 図や表は、本文の該当箇所に挿入するか、別ファイルにまとめて提出する。別ファイル提出の場合は、本文中に挿入箇所を明示する。
図や表には、それぞれの通し番号を付して表題を付ける。必ず「単位」と「出所」または「資料」を明記する。なお、「出所」とは、原数値をそのまま用いる場合であり、「資料」は、原数値を加工した場合をいう。図表を他の著作物から引用する場合には、出所を図表の下に明示し、必要に応じて原著者または著作権所有者から使用許可を得ておくこと。統計表において、該当項目のない場合や数値不明の場合は…、数値が皆無である場合は—で表示する。
5. 文献からの文章の「引用」は、原則として1件につき200字以内にとどめ、原文が訳文のいずれかを記載する。
6. 「注」と「引用文献」は、本文の末尾にこの順でそれぞれ分けて記載する。
 - 6.1 「注」には、(1), (2)…のような一連番号を付する。
 - 6.2 本文中における、「注」を付す場所には、()内に数字を入れ、右上付き文字で示す。
 - 6.3 「引用文献」には、本文中で引用した文献のみを記載する。「引用文献」の記載は、和文の場合は、日本語文献と外国語文献とに分け、この順に、日本語文献は著者の50音順、外国語文献は著者のアルファベット順に記載する。英文の場合は、日本語文献と外国語文献に分けず、著者のアルファベット順に記載する。同一著者については、発表年月順とする。
 - 6.4 本文および図表等における文献の引用方法は、原則として、著者の姓と発表年次を記載し、2度目以後の引用も同様とする。
文章に組み入れる場合：(例) 舘 (1963)は、Samuelson (1964)が、
()で引用する場合：(例) (舘 1963), (南 1960, 舘 1963)
 - 6.4.1 同一著者に同一年次の文献がある場合、a, b, …を添える。
(例) 中川 1940a, 中川 1940b
 - 6.4.2 著者が2人の場合、和文文献は「・」(ナカグロ)、欧文文献は”and”で併記する。著者が3人以上の場合、和文文献は「他」、欧文文献は”et al.”により示す。
(例) 石川・井上 (2001), Bongaarts and Bulatao (1999), 上田他 (1930), Davis et al. (1956)
 - 6.4.3 著者名が長大な場合や無記名、刊行年次が不明な場合などには、これに代わる適切な方法を用いる。
7. 「引用文献」の記載は、下記の方式によること。
 - 7.1 和文論文等
 - 7.1.1 単行本：著者名、出版年、『書名』、(シリーズ名)、出版社。
(例) 舘稔, 1963, 『人口分析の方法』(形成選書), 古今書院。
 - 7.1.2 単行本収載論文：執筆者名、出版年、「論文名」、編集者名、『書名』、出版社、ページ。
(例) 寺尾琢磨, 1996, 「マルサスとマルクス」, 南亮三郎・舘稔編 『マルサスと現代』, 勁草書房, pp.158-200.
 - 7.1.3 雑誌収載論文等：執筆者名、共同執筆者名、出版年、「論文名」、『雑誌名』、巻号、ページ。
(例) 中川友長, 1940a, 「将来人口の計算」, 『人口問題研究』第1巻第2号, pp. 13-15.

- 7.2 英語論文等に掲載の和文文献
- 7.2.1 単行本：著者名，出版年，*英語の書名*（イタリック），（シリーズ名），出版社，[In Japanese].
 （例）Ministry of Health, Labour and Welfare, 2017, *Special Report on the Vital Statistics in 2017: The Summary of Statistics about Marriage*, Ministry of Health, Labour and Welfare. [In Japanese]
- 7.2.2 単行本収録論文：執筆者名，出版年，“英語の論文名”，編集者名，*英語の書名*（イタリック），出版社，ページ，[In Japanese]. 英語の論文名が存在しない場合はローマ字表記とする。
 （例）Ohta, Kiyoshi, 2010, “Income Inequality: Among Individuals, Scale of Company, and Industry”, Higuchi, Yoshio and Economic and Social Research Institute, eds., *Labour Market and Income Inequality*, Keio University Press, pp.319-368. [In Japanese]
- 7.2.3 雑誌収録論文等：執筆者名，出版年，“英語の論文名”，*英語の雑誌名*（イタリック），巻号，ページ，[In Japanese] 英語の論文名や雑誌名が存在しない場合はローマ字表記とする。
 （例）Higuchi, Yoshio and Sato, Kazuma, 2015, “Commonalities in Employment, Wage and Inequality Data of Developed Countries : Is Japan Unique?”, *Mita Business Review*, 58-1, pp.15-36. [In Japanese]
- 7.3 欧文文献
- 著者名は，アルファベット順とする。邦訳のある場合は，（ ）内に記載する。
- 7.3.1 単行本：著者名，出版年，*書名*（イタリック），出版地，出版社。
 （例）Samuelson, Paul A., 1964, *Economics : An Introductory Analysis, 6th ed.*, New York, McGraw-Hill.（都留重人訳『経済学—入門的分析—』岩波書店，1966年）
- 7.3.2 単行本収録論文：執筆者名，出版年，“論文名”，編者ed.，*書名*（イタリック），出版社，ページ。
 （例）Chakravarty, Sastra and Echaus, Robert S., 1961, “Choice Elements in International Planning”, Rosenstein-Rodan, Paul N. ed., *Capital Formation and Economic Development*, London, Allen & Unwin, pp.68-82.
- 7.3.3 雑誌論文等：執筆者名，出版社，“論文名”，*雑誌名*（イタリック），巻—号，ページ。
 （例）Lokanathan, Paul S., 1968, “Regional Co-Operation and Development”, *Indian Economic Journal*, 15-13, pp.396-398.
- 7.4 予定刊行物には，発行月または発行年に続いて，和文の場合には（予定）を，英文の場合には（forthcoming）等を付記する。
8. 文章は原則として常用漢字，現代かなづかい，算用数字を使用し，平明な表現を用いること。
- 8.1 外国の国名・地名・人名などは，漢字による表記が慣例となっている場合を除き，原則として，カタカナ書きにする。なお，一般化していない地名・人名・機関名・会社名など固有の名称は，最初に限り，その原語（ローマ字使用）をカッコ内に付記する。
 （例）マルサス（Thomas Robert Malthus）は…。マルサスの指摘によれば… アジア太平洋経済社会委員会（Economic and Social commission for Asia and the Pacific, ESCAP）が…。ESCAPは… カオブラ村（Tambon Khaophara）には…。カオブラ村の人口は…
- 8.2 外来語，外国（中国を除く）の度量衡および貨幣の単位は，カタカナ書きにする。ただし，パーセントは記号（%）を使う。図表では，一般的な単位は，記号（m, g, tなど）を用いる。
 （例）コーヒー，ガラス，メートル，トン，ドルなど。
- 8.3 数字は，原則として算用数字を使う。ただし，本文中では，コンマを用いず，万以上の数字には，万，億，兆などの文字を用いる。
 （例）23億500万円，1万2000人，第4次5カ年計画，表1
9. 英文原稿についても，上記の要領に準ずる。